

美術博物館



令和7年度は、秋に特別展「山とともに生きる―遠山郷のあゆみとくらし―」を開催しました。

長野県内で同年度に開催された数多くの展覧会のうち、本展は地域に根ざした意義ある企画内容として、長野県博物館協議会において優秀企画展の1つに選ばれました。

1 沿 革

平成元年10月 8 日 正式開館

- 10月 常設展示・柳田國男館・日夏耿之介記念館の公開始まる
- 平成2年1月 須田剋太氏から同氏の作品寄贈を受ける
- 10月 飯田ロータリークラブより岩石園が寄贈される
- 平成5年5月 電子顕微鏡装置を導入する
- 7月 上郷町との合併により、上郷考古博物館を分館とし、秀水美人画美術館を付属施設として包含する
- 平成6年9月 井村英治氏より所蔵美術品(井村コレクション)の寄贈を受ける
- 平成8年3月 藤本四八氏から同氏の写真作品の寄贈を受ける
- 平成9年4月 高田由紀氏より所蔵美術品(岩崎新太郎コレクション)の寄贈を受ける
- 平成11年3月 綿半野原総業株式会社より、綿半野原コレクションの寄贈を受ける
- 5月 熊谷みづほ氏より熊谷好博子染色作品の寄贈を受ける
- 平成14年9月 文化庁の認める「公開承認施設」となる(～令和4年9月まで)
- 10月 菱田春草の代表作品「菊慈童」を購入する
- 平成15年5月 菱田春草作品「菊慈童」の購入ために「菊慈童の購入を願う市民会議」が前年9. から取り組んだ募金活動による、総額51,278,445円の寄附金を受ける
- 平成16年3月 正宗太郎氏から正宗得三郎作品の寄贈を受ける
- 4月 追手町小学校化石標本室開設
- 12月 仲村良一氏から仲村進作品の寄贈を受ける
- 平成17年2月 中2階を増設し学習室リニューアルオープン
- 10月 上村と南信濃村との合併により、上村山村文化資源保存伝習施設と付属施設山村ふるさと保存館ねぎや、および南信濃民芸等関係施設を包含する
- 平成18年4月 井上正館長が退任し、新館長に滝沢具幸が就任
- 8月 第1回美博まつり開催
- 平成19年3月 空調設備の熱源であるチラーの更新、ポンプや空調機の制御システム省エネ化、照明の省エネ改修および電力管理システムを導入する
- 4月 本年度から飯田市藤本四八写真文化賞事業を担当する
- 平成20年4月 上町活性化委員会を上村山村文化資源保存伝習施設「天伯」、付属施設山村ふるさと保存館「ねぎや」の指定管理者とする
- 6月 開館20周年記念式典、記念講演会開催。あわせて「田中芳男の胸像等制作を願う会」より胸像の寄贈を受けて除幕式を開催する
- 6月 美術博物館ロゴマーク決定
- 6～10月 開館20周年記念として記念式典ならびに特別陳列・企画展を開催
- 7月 びはく年間パスポート会員を募集開始
- 11月 開館20周年記念第1回びはく学芸祭「伊那谷の自然と文化」開催
- 平成21年3月 ロビー空間を無料とする
- 平成22年4月 財団法人飯田市南信濃振興公社を南信濃民芸等関係施設(遠山郷土館)の指定管理者とする
- 平成23年3月 プラネタリウムリニューアルオープン(記念イベント開催)
- 平成25年3月 遠山郷土館の大規模展示更新
- 4月 株式会社上村振興公社を上村山村文化資源保存伝習施設「天伯」、付属施設山村ふるさと保存館「ねぎや」の指定管理者とする
- 平成27年3月 菱田春草生誕140年展・菱田春草生誕地公園完成

- 平成28年11月 柳田國男館が国登録有形文化財に登録される
- 平成29年 3月 笹本千草氏から菱田春草未完成作品の寄贈を受ける
- 4月 飯田市美術博物館2028ビジョン・基本プランを策定
- 9月 菱田春草記念室常設展示を開始
- 平成30年12月 株式会社大空企画を上村山村文化資源保存伝習施設「天伯」、付属施設山村ふるさと保存館「ねぎや」の指定管理者とする
- 令和元年 7月 自然・文化展示室リニューアルオープン、自然・文化トピック展示がスタートする
- 令和3年 4月 文化財保護活用課が上郷考古博物館内に移転し、上郷考古博物館および付属施設の秀水美人画美術館の運営担当課となる
- 令和4年 4月 条例の改正により飯田市上郷考古博物館の名称を飯田市考古博物館に改める
- 令和5年10月 ロビーの特定天井の耐震補強工事（～令和6年3月まで）
- 令和6年 4月 滝沢具幸館長が退任し、新館長に蜂谷充志が就任
- 令和6年 7月 笹本千草氏から菱田春草の作品・資料の寄贈を受ける

2 展覧会

- 令和3年度 自然・文化トピック展示「三六災害から60年」（6月）・特別陳列「東山道と伊那谷の古代仏教文化」（7月）・没後110年特別展「菱田春草 故郷につどう珠玉の名画」（10月）文化トピック展示「伊那谷の富士信仰ー不二道信者松下千代と仲間たちー」（10月）・自然トピック展示「生き物を未来に伝えるー美博の標本づくりー」（10月）・第22回現代の創造展（11月）・文化トピック展示「飯田下伊那における疫病」（12月）・自然トピック展示「春を彩るスマレ」（2月）・文化トピック展示「元善光寺のご開帳」（3月）
- 令和4年度 自然トピック展示「夏だ!虫だ!クワガタだ!」（6月）・文化トピック展示「飯田城から追手町小学校へ」（6月）・特別陳列「南アルプスジオパーク ジオサイトを巡る」（7月）・文化トピック展示「飯田町の学問と文化」（9月）・特別展「城下町飯田と飯田藩」（9月）・自然トピック展示「トンネルの中から地中をのぞく」（9月）・「第23回 現代の創造展」（11月）・文化トピック展示「伊那谷を襲った近世の2つの地震ー遠山地震・安政東海地震ー」（12月）・自然トピック展示「南アルプスのアンモナイト化石」（1月）・文化トピック展示「りんご並木と田中芳男ー「りんごの町飯田」誕生ー」（3月）・特別展「美術と風土ーアーティストが触れた伊那谷展」（3月）遠山郷土館トピック展示「国学ってなに」（4月）・「満洲は豊かだったか」（7月）・「児童自由画展」（10月）・「春を彩るスマレ」（1月）
- 令和5年度 文化トピック展示「南信州の風流踊」（6月）・自然トピック展示「伊那谷でちかごろ目立つ外来生物」（6月）・特別陳列「驚異の部屋ー長谷川善和コレクションー」（7月）・文化トピック展示「『飯田歌舞伎座』ー明治飯田を彩った芝居と相撲の殿堂ー」（8月）・第75回長野県美術展（10月）・自然トピック展示「南アルプスの高山蛾調査最前線!」（3月）・「複製画で見る春草の名画」（3月）・「江戸の中の飯田藩」（3月）遠山郷土館、上村まつり伝承館「天伯」・トピック展示「トンネルの中から地中を覗く」（4月）・「『遠山奇談』入門」（7月）・「飯田町の学問と文化」（10月）・「飯田下伊那を襲った2つの地震」（1月）
- 令和6年度 文化トピック展示「旧小笠原書院築400周年 伊豆木小笠原家と旧小笠原書院」（6月）・特別陳列「飯田と富岡鉄斎」（7月）・自然トピック展示「そして化石は『標本』になるー近藤恭一がみつけた富草の海ー」（8月）・特別陳列「太田用成生誕180年記念『七科約説』を生んだ飯田の医学・本草学」（8月）・文化トピック展示「菱田家

の人びと」(9月)・菱田春草生誕150年記念特別展「創造の道筋―画卷《四季山水》への歩み―」(10月)・第24回現代の創造展(11月)・「複製画で春草の名画を見よう」(12月)・文化トピック展示「生誕150年 仏師井出嘉汕の眼と技」(12月)・自然トピック展示「ギフチョウと伊那谷の春のチョウ」(2月)・文化トピック展示「新収蔵品紹介 修復を終えた田中芳男関係資料」(3月)遠山郷土館、上村まつり伝承館「天伯」・「遠山谷の盆踊り」(8月)・「飯田下伊那における疫病」(11月)

3 施設の概要

(1) 美術博物館

ア 場 所	飯田市追手町2丁目655番地7
イ 敷地面積	14,346.16㎡
ウ 構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上2階、地下1階
エ 建築面積	3,813.21㎡(延床面積4,938.16㎡)
オ 付属施設	日夏耿之介記念館 木造平屋造 62.94㎡ 柳田國男館 木造2階建 245.40㎡

(2) 上村山村文化資源保存伝習施設(通称 まつり伝承館天伯)(平成17年10.包含)

ア 場 所	飯田市上村753番地
イ 敷地面積	368.13㎡
ウ 構 造	木造(一部鉄骨)2階建
エ 建築面積	463.32㎡(延べ485.19㎡)
オ 付属施設	山村ふるさと保存館ねぎや 木造2階建 311.00㎡

(3) 南信濃民芸等関係施設(通称 遠山郷土館)(平成17年10.包含)

ア 場 所	飯田市南信濃和田1192番地
イ 敷地面積	2179.98㎡
ウ 構 造	鉄筋2階建(一部3階建)
エ 建築面積	574.67㎡(延べ735.05㎡)

4 運営方針

(1) 開館時の基本方針

- ① 100年後のあるべき姿を見つめながら、ハイレベルの施設づくりをめざします。
- ② 自然、人文(考古含む)、美術の3部門の特性を活かし、「伊那谷の自然と文化」への、それぞれの深い掘り下げと総合館としての横のつながりをめざします。
- ③ 「伊那谷の自然と文化」に関する研究条件を整備し、活発な学芸活動をめざします。
外部の専門家との連携を深め、多くの学識の提供を受けるとともに、市民のみなさまとの共同研究も行い、年報、研究紀要、伊那谷自然史論集やびはく学芸祭などで発表します。
- ④ 教育普及活動に重点をおき、学芸職員のほか、外部の専門家を招聘し、学術的に高度の内容を維持しつつ、一般に理解し易い講座を行います。
- ⑤ 所蔵者との信頼関係を深め、寄贈、寄託等を通して展示品の増加、充実に努めます。
- ⑥ 購入については、特に春草作品を優先し、緊急を要する大作については特別に対処できるよう対策を講じます。
- ⑦ 展示は、「常設展示(室)の内容の充実」、「特別展、企画展の計画的開催」、「良質な美術展覧会等の誘致開催」を目標として行っていきます。

（２）飯田市美術博物館2028ビジョン・基本プラン

美術博物館が、リニア時代において、博物館としての使命を果たしていくためには、市民のまちづくりや多様化する学びの欲求に応えていくことが必要です。そこで、当館の今後のあり方や事業活動における基本的な方向を示すビジョンと、それを達成するための取組を示す基本プランを策定しました。期間は平成29年度（2017）から令和10年度（2028）までの12年間とし、４年ごとに見直ししながら本計画に基づいた事業活動に取り組んでいます。

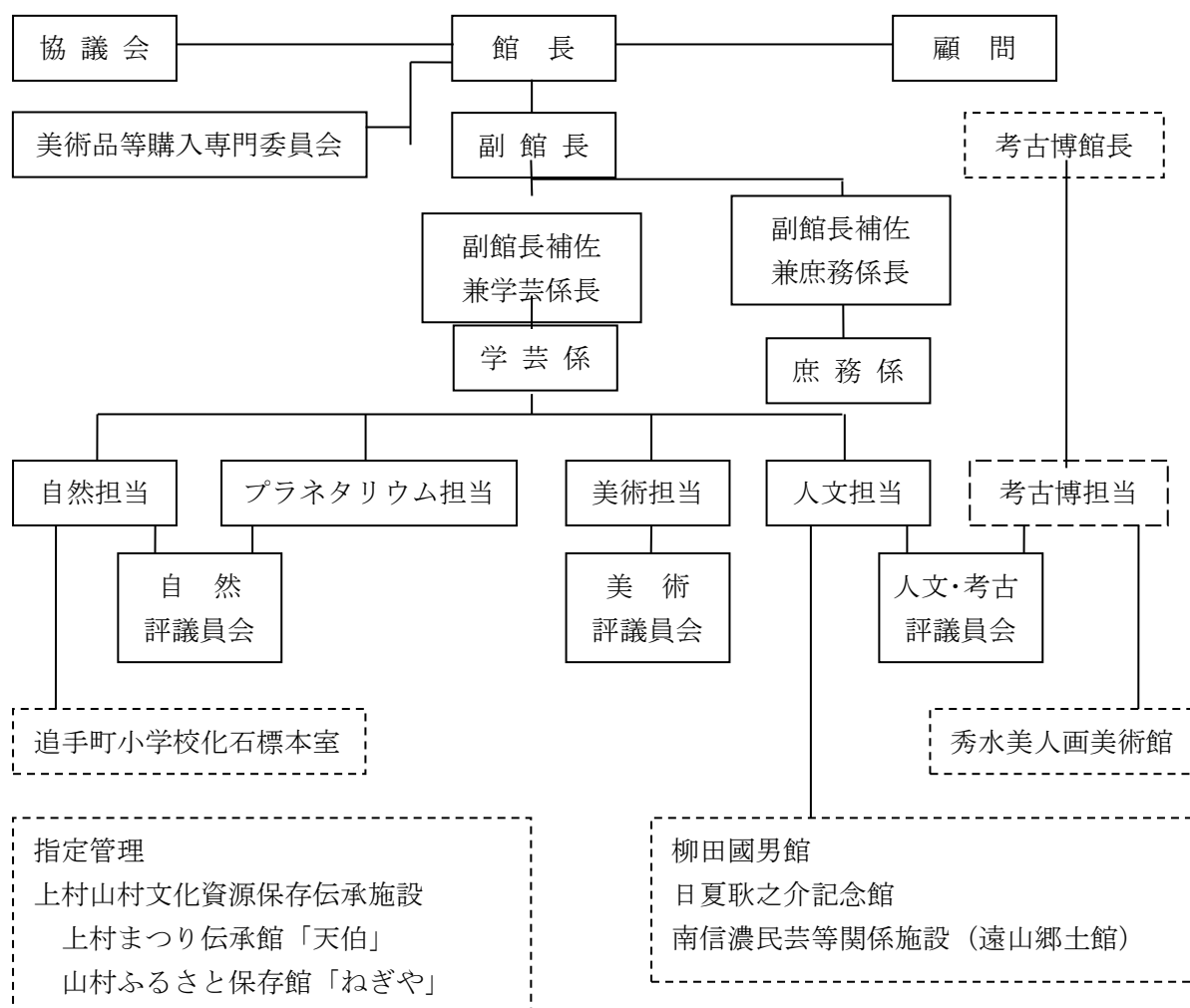
〈めざす姿〉

リニアがもたらす大交流時代に「飯田の価値と魅力」を発信し学びあい未来をひらくミュージアム

〈３つの重点目標〉

- 「伊那谷の自然と文化」の総合的なガイダンス機能を高め、飯田の魅力を広く紹介します。
- 「地域振興の知の拠点」の一翼を担うべく、「交易と交流」を視点に「飯田の価値と魅力」を探ります。
- 多様な学びに学術的に応え、文化の創造と地育力の向上に寄与します。

５ 運営組織（令和７年度）



6 入館者数

(1) 入館者数（令和7年度）

（単位：人）

区 分	美 術 博 物 館									
	展 覧 会					プラネタリウム				
	個人	団体	減額	免除	計	個人	団体	減額	免除	計
一 般	9,778	1,741	1,079	1,802	14,400	4,946	318	82	520	5,866
高校生				204	204	79	46	0	45	170
小中学生				3,749	3,749	3,704	387	26	1,971	6,088
小 計	9,778	1,741	1,079	5,755	18,353	8,729	751	108	2,536	12,124
無 料	11,574				11,574	531				531
計	21,352	1,741	1,079	5,755	29,927	9,260	751	108	2,536	12,655

(2) 入館者状況

（単位：人）

区 分	美 術 博 物 館		
	展 覧 会	プラネタリウム	計
令和3年度	32,106	4,684	36,790
令和4年度	31,237	6,040	37,277
令和5年度	23,130	7,808	30,938
令和6年度	29,149	9,916	39,065
令和7年度	29,927	12,655	42,582

(3) 上村、南信濃関連施設入館者数（令和7年度）

（単位：人）

区 分	上村まつり伝承館天伯					遠山郷土館				
	個人	団体	減額	免除	計	個人	団体	減額	免除	計
一 般	173	77			250	859	194	11	33	1,097
小中学生	0				0				17	17
無 料	507				507	861				861
計	680	77			757	1,720	194	11	50	1,975

(4) 上村、南信濃関連施設入館者状況

（単位：人）

	上村まつり伝承館天伯	遠山郷土館
令和3年度	249	1,974
令和4年度	596	2,069
令和5年度	395	1,041
令和6年度	770	906
令和7年度	757	1,975

(5) 付属施設等入館状況

（単位：人・回）

区 分	柳田國男館	日夏耿之介 記念館	追手町小学校 化石標本室	市民ギャラリー	
				展示回数	入場者数
令和3年度	1,657	630	597	16	5,966
令和4年度	2,435	874	268	29	9,603
令和5年度	1,817	752	124	23	8,570
令和6年度	2,792	1,102	419	32	15,019
令和7年度	3,740	1,130	278	34	14,838

7 教育普及活動（令和7年度）

（1）館主催の講演会・講座・解説会・ワークショップ等

区 分	美 術	人 文	自 然	全 体	計
回 数(回)	40	52	80	2	169
出席者(人)	793	1,244	1,583	514	4,134

（2）地域・団体等への招聘・参加の教育普及活動

区 分	美 術	人 文	自 然	計
回 数(回)	49	16	60	125
出席者(人)	1,056	676	1,588	3,320

8 刊行物一覧（新刊）

書籍名	発行所	刊行年	仕様	部数	頒価
研究紀要 第36号(美術・人文)	美術博物館刊	2026年	A4判 モノクロ 102頁	450部	1,200円
菱田春草カレンダー（2026年）	美術博物館刊	2025年	A3判変形 カラー	1000部	1000円
飯田市美術博物館 年報第35号	美術博物館刊	2025年	A4判 モノクロ 142頁	350部	配布のみ
伊那谷自然史論集vol. 27	美術博物館刊	2026年	A4判 モノクロ 47頁	310部	1,000円
『山とともに生きる 遠山郷のあゆみとくらし』	美術博物館刊	2025年	A4判 カラー 96頁	800部	1,800円
『水谷章人の世界』	美術博物館刊	2026年	A4判カラー 8頁	1500部	配布のみ

9 令和7年度 事業報告

（1）展示事業

〈美 術〉

1）企画展 写真家60周年記念展「水谷章人の世界」

R8. 1. 10～2. 23 1,530人

当地の写真分野の普及にも貢献している水谷氏の写真家60周年を記念して、同氏のこれまでの活動を振り返る企画展として開催。

2）第25回 現代の創造展－南信州のアートを共に創る－

R7. 11. 17～12. 8 3,143人

飯田下伊那ゆかりの作家たちによる展覧会。日本画・洋画・版画・彫刻・工芸・書・コンテンポラリーの7分野。実行委員会が作家を推薦して作品を依頼する展覧会。前回に引き続き会期中には作家によるギャラリートークと中高生による一日学芸員を実施。

3）菱田春草記念室常設展示

令和7年度の菱田春草常設展示は7本を実施した。なお令和7年度は春草作品の貸出の予定がなかったため、会期は基本5週間とした。季節の画題にわけた展示はこれまで行ってこなかった展示方法である。特集展示を含めることで、春夏秋冬の季節の展示をおこなうことができた。

①第52期 出発－画家を志して－ R7. 4. 19～5. 25 1,554人

②第53期 初夏－うるおいの季節－ R7. 6. 7～7. 13 1,794人

③第54期 外遊－海を望んで－ R7. 7. 19～8. 24 3,622人

④第55期 紅葉－静寂の時－ R7. 8. 30～10. 5 2,521人

⑤第56期 挑戦－文展への道－ R7. 10. 11～11. 16 2,486人

⑥第57期 暮秋－うつろう色彩－ R7. 11. 23～12. 28 3,564人

⑦第58期 萌春－さくら咲く－ R8. 3. 7～4. 12 1,592人（R7年度 1,137人）

4) 「複製画で春草の名画を見よう」

R8. 1. 10～2. 23 1, 530人

《落葉》《黒き猫》などの複製画を通じて春草の代表作のみどころを紹介する展示。また、下條中学校、竜峡中学校を対象に実施した鑑賞学習の様子も紹介した。

5) コレクション展示

令和7年度のコレクション展示は4本を開催した。館蔵品の公開を目的とし、日本中世絵画、抽象作品、綿半野原コレクションの陶磁器と大森運夫作品を以下のように紹介した。

- ①千紫万紅－江戸絵画の創意－ R7. 6. 7～7. 13 1, 794人
- ②Hot&Cool－須田剋太とオノサト・トシノブの抽象－ R7. 7. 19～8. 31 3, 957人
- ③浄瑠璃人形を描く－大森運夫のまなざし－ R8. 3. 7～4. 12 1, 592人 (R7年度1, 137人)
- ④陶酔境に到る－綿半野原コレクションの陶磁器2026－ R8. 3. 7～5. 24 3, 521人 (R7年度1, 137人)

6) 子ども美術学校・中学生造形教室作品展

R8. 2. 6～2. 23 719人

5月から9月まで実施した「こども美術学校」と、5月から10月まで実施した「中学生造形教室」における製作物を紹介した展覧会。こども美術学校は6種360点、中学生造形教室は4種44点の作品を展示した。

〈人 文〉

特別展「山とともに生きる－遠山郷のあゆみとくらし－」

R7. 9. 13～11. 9 4, 245人

中央構造線に形づくられた遠山谷を利用した交通、近世から近現代にかけておこなわれた山林開発の歴史、自然環境に対峙してきた暮らし、こうした自然環境やそのなかで培われてきた「遠山霜月祭」などの文化を通して、山とともに生きてきた遠山郷の“あゆみ”や“くらし”を紹介し、地域の今後のあゆみを考える機会とした。

1) トピック展示

- ①「新収蔵品紹介 万国博覧会と田中芳男」 R7. 6. 7～8. 24 5, 812人
- ②柳田国男生誕150年「柳田国男と南信州」 R7. 8. 26～11. 16 5, 692人
- ③「下伊那歴史研究のあゆみ」 R7. 11. 23～R8. 2. 23 5, 502人
- ④瑠璃寺御開帳記念「大型屋台獅子の誕生とひろがり」 R8. 3. 7～5. 24 3, 873人

2) 遠山郷土館、上村まつり伝承館「天伯」トピック展示

本館で開催したトピック展示の巡回展示や遠山谷をテーマとした展示を①～④の3本開催した。

遠山郷土館

- ①「南アルプスジオパークジオサイトを巡る」 R7. 6. 7～9. 26
- ②「秋葉街道」 R7. 9. 27～R8. 1. 21
- ③「柳田国男と南信州」 R8. 1. 24～

上村まつり伝承館「天伯」

- ①「伊那谷でちかごろ目立つ外来生物」 R7. 6. 7～9. 26
- ②「南アルプスジオパークジオサイトを巡る」 R7. 9. 27～R8. 1. 21
- ③「秋葉街道」 R8. 1. 24～

3) 藤本四八記念小中高校生写真賞

写真賞 前年度に引き続き、小学生・中学生・高校生ごとに作品を募集し、「藤本四八記念賞」「しんきん大賞」「水谷章人特別賞」「教育長賞」「館長賞」を選出して表彰。今回は総点数総点数 59 名 196 点（小学生：26 名／44 点 中学生：5 名／8 点 高校生：28 名／44 点）の応募があった。

募集期間 R7.9～11

表彰式 R8.2.8

作品展示 美博ロビー展（こども×びはく2026）：R8 2 月 6 日（金）～2 月 23 日（月）
信金本店ロビー展：R8 3 月 2 日（月）～3 月 13 日（金）

審査員 水谷章人氏・教育長・本館館長

協賛 飯田信用金庫

〈自 然〉

1) 企画展「高山植物と高山昆虫からたどる 南アルプス博物学の120年」

R7.6.7～8.31 5,827人

明治後期から昭和初期に活発に行われた学術登山とその成果を写真や標本で示し、当館が2016年から実施してきた南アルプス高山帯の生物調査の成果についても紹介した。また地球温暖化やニホンジカによる植生破壊の現状についても紹介した。

2) トピック展示

- ①「帰ってきた植物化石 ―田中芳男と科博天産部標本から探る伊那谷の自然科学黎明期―（国立科学博物館共催） R7.6.7～9.28 8,313人
- ②「化けるムシたち」 R7.9.30～R8.2.1 7,788人
- ③「わたしのコウブツ」 R8.2.3～5.24 5,036人（R7年度2,280人）

3) 自然展示室展示変更

季節の自然ひとつまみパネル

【令和7年度のテーマ】4月「伊那谷の在来のサクラ」、5月「目にも耳にもあざやか オオルリ」、6月「キモこわい？ヌメかわいい？ ヤマビル」、7月「梅雨の湿地のクサレダマ」、8月「ツバメのねぐら入り」、9月「夏の名残のキベリタテハ」、10月「アンモナイトを抱くアオツヅラフジ」、11月「雑草の草もみじ」、12月「カラの混群」、1月「ケヤキの樹皮の裏側」、2月「立春を告げるセツブンソウ」、3月「春一番に産卵するヤマアカガエル」

4) 追手町小学校化石標本室の公開

平成6年度に長谷川善和氏（横浜国立大学名誉教授、当館顧問）から寄託された古生物標本・現生動物骨格の展示室として平成16年度に追手町小学校化石標本室がオープンした。令和5年度には展示のリニューアルをおこなった。 R7年度 278人

〈プラネタリウム〉

1) プラネタリウム投影

①投影回数・観覧者数

投影回数479回 観覧者数12,655人

②一般投影

土・日・祝日並びに長期休暇期間に1日3回の投影をおこなった。

投影番組

- ・ヘーゼルナッツ
- ・オーシャン
- ・宇宙のオアシスを探して
- ・イナズマデリバリー バイザウェイの宇宙旅行
- ・プラネタリウムでチョコちゃんに叱られる！2
- ・イントゥ・ザ・ネイチャー
- ・たいようくんとおつきちゃん
- ・マーズ1001 火星に舞い降りる日
- ・虹の天象儀
- ・ねずみと森のなかまたち
- ・イマジンザムーン

③予約投影

平日10:00～17:00の時間帯に、幼稚園、保育園、小学校や一般の団体を対象に予約を受けて投影をおこなった。

④特別投影

「お誕生星座と黄道12星座」《春》4/26《夏》7/26《秋》中止《冬》1/24 3回・83人

「四季の星座解説」《春》4/27《夏》7/27《秋》11/1《冬》2/1 4回・115人

「春草ウィーク投影」9/17～23 5回・36人

「ぐっすりプラ寝たリウム」11/23 25人

「防災ミニ展示と東日本大震災のプラネタリウム番組(仙台市天文台制作)「星よりも遠くへ」投影」2/21～23 3回・29人

(3) 教育普及事業

〈全 体〉

1) 夏休みイベント

ワクワクびはくで夏休み2025 R7. 8. 2 469人

プラネタリウム無料投影、ワークショップ、クイズなどを実施。

①化石レプリカを作ろう、②とうめいボトルでコケリウム、③古い建物の模型を作ろう、④忍者メシをつくろう、⑤パクパクおししをつくろう、⑥へんてこマスコットをつくろう、⑦ドキドキびはく名所ツアー、⑧ミニプラネタリウムをつくろう、⑨クイズラリーびはく探検の旅

2) 5館スタンプラリー

5館(飯田市美術博物館・飯田市考古博物館・秀水美人画美術館・上村まつり伝承館「天伯」・遠山郷土館「和田城」)をめぐることで、地域の文化や歴史に触れる機会をつくった。

R7. 7. 19(土)～8. 24 198人 4館以上観覧2人

3) シルバーウィーク

敬老の日(9. 15)にちなみ、期間を春草ウィークに合わせて、遠山郷土館と考古博物館においても展示観覧料無料とした(～9. 21まで)。

4) 田中芳男と国際博物館の日

R7. 5. 18 国際博物館の日(毎年5月18日)には、展示観覧料無料化を実施している。7年度からは、飯田出身の「日本の博物館の父、田中芳男」を知っていただくために、「田中芳男」を冠してPRを強化し無料開館のほか展示や見学会を行なった。

①文化トピック展示「新収蔵品紹介 修復を終えた田中芳男関係資料(～5/25)

②田中芳男「博物館設立ノ建議」「建議書」の展示(～5/25)

③見学会「“日本の博物館の父” 田中芳男とりんご並木」

5) びはく学芸祭2025

自然・人文・美術分野の調査研究や教育普及活動を広く紹介する企画。ポスター発表と、口頭発表・ポスターセッションを実施した。

【ポスター発表】

会期中、本館ロビーにおいて研究発表者のポスター18点を掲示した。

掲示期間：R8. 3. 14～3. 29

〈美 術〉

1) 美術講演会

一線で活躍する研究者・作家を招聘して、美術にまつわる専門的な話題を提供する講演会。R7度は当館の蜂谷充志館長が講演した。

「私の作品制作とアートの思考」蜂谷充志（飯田市美術博物館館長、常葉大学造形学部教授）R8. 3. 28 24人

2) 春草講座

菱田春草に関する連続講座。学芸員などが講師となり、春草にまつわる話題を提供した。令和7年度は明治期に春草に対してなされた批評を紹介した。

①第1講「春草と批評―明治30年代―」小池朋実（本館学芸員）R7. 9. 14 12人

②第2講「春草と批評―明治40年代―」小島 淳（本館学芸員）R7. 10. 26 13人

3) 美術鑑賞の会

夜間開催の鑑賞会。学芸員の解説付きで展覧会を鑑賞した。

①第42回「春草の外遊／抽象画の鑑賞」小池朋実・小島淳（本館学芸員）R7. 8. 22 6人

②第43回「写真鑑賞・水谷章人の世界」水谷章人氏（写真家）R8. 1. 30 16人

4) 展覧会付属講演会

企画展「水谷章人の世界」にあわせて2本のギャラリートークを開催した。また第25回現代の創造展に際しては、現代の創造展実行委員会が企画するギャラリートークなどに協力した。

①企画展 写真家60周年記念展「水谷章人の世界」

・ギャラリートーク1 水谷章人氏（写真家）R8. 1. 10 59人

・ギャラリートーク2 水谷章人氏（写真家）R8. 2. 7 45人

②第25回現代の創造展

・ギャラリートーク1 出品作家11名 R7. 11. 29 52人

・ギャラリートーク2 出品作家11名 R7. 12. 7 48人

・中学生一日学芸員 R7. 11. 29 13人（中学生）

・高校生一日学芸員 R7. 12. 7 12人（高校生）

5) 日本画実技講座

講師に作家を招聘して実施する日本画講座。初心者から経験者まで参加でき、日本画の様々な技法を実践した。

講 師 滝沢具幸（本館顧問）

R8. 3. 7～8

参加者 20人（7日10人、8日10人）

6) 春草ウィーク・プラネタリウム特別投影

「春草ウィーク」に際してプラネタリウムで春草番組の無料特別投影をおこない、その解説をおこなった。

「菱田春草～永遠の時を越えて～」小池朋実・小島淳（本館学芸員）R7. 9. 17～9. 23

7) 子ども美術学校

小学生4～6年生を対象とした図画工作の講座。3クラス各7回を実施し、様々なプログラムを組んで造形に挑み、鑑賞授業もおこなった。

- ・講師 手塚俊尚（本館専門研究員）
- ・期間 5月～11月
- ・参加 在籍63人、のべ423人、6種360点を製作
- ・展示 R7. 2. 6～2. 23（市民ギャラリー）

8) 中学生造形教室

中学生を対象とした絵画・工作の造形講座。1クラス4回を実施し、様々なプログラムを組んで造形に挑み、鑑賞事業もおこなった。

- ・講師 手塚俊尚（本館専門研究員）
- ・期間 6月～10月
- ・参加 在籍11人、のべ42人、4種44点を制作

〈人 文〉

1) 文博文化講座

- ①「田中芳男とりんご並木」（見学会）飯田・城下町サポーターの皆さん 5/18 31人
- ②「人知れぬ海のいのち―自然を生きる漁師の心意―」（伊那民俗学研究所共催事業）川島秀一氏（東北大学災害科学国際研究所シニア研究員）5/25 42人
- ③「日夏耿之介の足跡を訪ねて」（見学会）織田顕行（本館学芸員）6/15 10人
- ④「田中芳男と博覧会・博物館」杵名貴彦氏（国立科学博物館産業技術史資料情報センター科学技術史グループ長）7/27 32人
- ⑤「城下町のライフライン「御用水」を訪ねて―橋北地区を中心に―」（見学会）飯田・城下町サポーターの皆さん 11/2 18人
- ⑥「下伊那史を支えた人々」伊坪達郎（下伊那史編纂委員長、飯田市歴史研究所所長）12/23 21人
- ⑦「大型屋台獅子の誕生とひろがり」近藤大知（本館学芸員）3/22 47人

2) ゼロから始める古文書

歴史研究所との連携事業として古文書講座を実施。講座を続ける中で課題となっていた、初心者レベルよりも習熟した受講者の受け皿をどうするかという解決案として、7年度から新たな試みとして年度の前半を初級（入門講座）、後半に中級（ステップアップ講座）の二段階に分けて講座を実施することとした。

期 日：1班 毎月第2水曜日、2班 毎月第3土曜日

講 師：歴史研究所・本館職員

3) 遠山郷土館学習講演会

パネル展示や遠山に関するテーマに沿って実施。

- ①トピック展示解説・見学会 四方圭一郎（本館学芸員）4/19 20人
- ②「“上島の霜月祭”を見る」（映像上映会）櫻井弘人氏（國學院大學兼任講師）11/29 17人
- ③「“秋葉山”参詣の資料を読む」近藤大知（本館学芸員）2/21 20人

〈自 然〉

1) 講演会・シンポジウム

- ①「化石タイムカプセル ―コンクリーションの謎をとく―」(伊那谷自然友の会と共同開催) 牛吉田英一氏(名古屋大学博物館教授) 5/6 51人(対面45人、オンライン6人)
- ②「高山の生き物の魅力と地球温暖化」
尾関雅章氏(長野県環境保全研究所主任研究員)・浜田崇氏(長野県環境保全研究所自然環境部長) 8/23 51人(対面36人、オンライン15人)

2) 自然講座 (伊那谷自然友の会共催)

- ①「飯田市天竜川西側を流れる2種類の地下水」今村幸治氏(宮下製氷冷蔵株式会社) 5/17 46人(対面36人 オンライン10人)
- ②「南アルプスの山々ができるまで」宮崎裕子氏(大鹿村中央構造線博物館) 6/14 68人(対面54人 オンライン14人)
- ③「伊那谷の植物化石が語ること ―本草学から近代科学まで―」矢部 淳氏(国立科学博物館) 7/5 44人(対面34人、オンライン10人)
- ④「南アルプス博物学の120年 ミニ講座+展示解説」四方圭一郎(本館学芸員) 8/22 25人
- ⑤「地形に残された災害の痕跡 ―CS立体図を使った地形判読―」戸田賢一郎氏(株式会社 ジオ・フォレスト) 8/30 39人(対面26人、オンライン13人)
- ⑥「遠山郷かぐらの湯は特異な泉質と地質であると判明」坂本正夫氏(本館客員研究員) 53人(対面40人、オンライン13人)
- ⑦「病気を媒介する野外の生き物 ―ダニ・ツツガムシなど」塚平晃弘氏(飯田市上村診療所 医師) 10/18 50人(対面35人、オンライン15人)
- ⑧「アジア・太平洋戦争末期の隠された大地震」下平 勉氏(伊那谷自然友の会) 10/25 23人
- ⑨「オオセンチコガネ ―生態観察から絵本の作成まで―」館野 鴻氏(画家・絵本作家) 11/8 32人(対面23人、オンライン9人)
- ⑩「ヤイロチョウの話」植松永至氏(日本鳥類学会会員) 12/20 28人
- ⑪「ハナアブ図鑑を作る！」酒井淳一氏(エコベッツ自然史研究所 双翅目研究家) 1/17 47人(対面29人、オンライン18人) ⑪「ハナアブ図鑑を作る！」

3) 伊那谷自然史発表会(伊那谷自然友の会共催) 3/14 31人

4) 子ども科学工作教室 <主催・子ども科学工作教室運営協議会>

会場 エス・バード 9/6 50人、11/15 50人

5) 微の世界をさぐる-電子顕微鏡公開-

昆虫の目、花粉、微化石など電子顕微鏡を使って微の世界を紹介する。

4~11月の第1・3日曜日 25回 96人(のべ)

〈プラネタリウム〉

1) 星空観望会

- ①「月と春の星座」5/2 17人
- ②「天の川と七夕の夜」7/5 32人
- ③「秋の星座と土星」10/10 32人
- ④「冬の星座」12/14 28人
- ⑤「皆既月食」3/3 【雨天中止】

2) プラネタリウムまつり 3/20

プラネタリウム投影「たいうようくんとおつきちゃん」「ムーンベース ～月面基地のミライ～」
82人

天文講演会「わくわく月世界ツアー」大川拓也氏 23人

(4) 調査・研究事業

〈全 体〉

1) 研究紀要36号の発刊 3月 450部

- ・小島淳 資料紹介 菱田春草『落葉ノート』記載の謡曲・漢詩
- ・阿部大地 翻刻 田中芳男自筆「明治二年日記」
- ・中山京子 調査報告 飯田下伊那に遺るたばこ倉
- ・加藤大智 伊那谷における弥生石器研究の現在地

2) 伊那谷自然史論集27号の発行 3月 310部

- ・坂本正夫 遠山かぐらの湯の地質と泉質
- ・村松 武 赤石山地南部、水窪川水系の中俣沢天然ダムとその変遷
- ・坂口江実・米山富和・前 祐治 長野県におけるイソヒヨドリの繁殖記録
- ・四方圭一郎・枝恵太郎・飯森政宏・金子岳夫・米山富和 赤石山脈三伏峠周辺（塩見岳・烏帽子岳・小河南岳）の蛾類
- その他、記録観察ノート7報

3) web上での情報発信

- ・『飯田市美術博物館研究紀要』『伊那谷自然史論集』の論文を、科学技術振興機構が運用する同種のサイト「J-stage」上に公開中。
- ・館蔵の古文書、収蔵品目録の一部をホームページ上に公開中。

〈美 術〉

1) 菱田春草および春草に関わる作家

- ①菱田春草作品の調査研究
- ②菱田春草未完成作品の調査研究
- ③菱田春草関連資料の調査研究

成果発表

- i 『飯田市美術博物館研究紀要 第36号』 令和8年3月
「資料紹介 菱田春草『落葉ノート』記載の謡曲・漢詩」（小島）
- ii びはく学芸祭2026 令和8年3月
「菱田春草と古典文学ー『落葉ノート』記載の謡曲・漢詩よりー」（小島）
「作品を探るー春草とアジャスター壁画模写ー」（小池）

2) 郷土関連の美術

3) 鑑賞教育

4) 造形教育

〈人 文〉

1) 展覧会関連調査

2) 社寺調査

依頼調査

各自治体教育委員会や博物館、社寺からの依頼を受けて仏像調査を実施した。

3) 民俗調査

飯田市下久堅地区での民俗調査（柳田國男記念伊那民俗学研究所との共同調査）

4) 建造物調査

5) その他

家屋解体、遺品整理等にともなう所蔵品等調査

〈自 然〉

1) 学芸員・専門研究員による調査研究

- ①「南アルプスの巨大崩壊と天然ダム」
- ②「長野県・新潟県を中心とした国内の海生哺乳類化石の分類学的検討」
- ③「南アルプス・八ヶ岳の高山帯の昆虫調査」
- ④「伊那谷における鳥類の生息状況調査」
- ⑤「鱗翅目昆虫の分類・生態」

2) 市民の協力を得た地域史研究事業

- ①南アルプス・八ヶ岳高山帯の生物調査
- ②鳥類ほ乳類の剥製・骨格標本作成

〈プラネタリウム〉

1) 連絡活動・研修会

- ・長野県プラネタリウム連絡協議会研修会 5/27～28（原村）、11/11（佐久市）
- ・日本プラネタリウム協議会・研修会 6/16～17（大阪市）、11/17～18（仙台市）

（5）資料収集・保管事業

部門ごとに資料の購入や寄贈・移管受入、寄託を受けた。

1) 寄 贈

〈美 術〉

- ・横井弘三《小笠原の教会》 1 面
- ・仲村進《陶壁図案》 14葉

〈人 文〉

- ・北島達雄撮影写真パネル 10点
- ・天保通宝 88枚
- ・仏師井出家資料（井出嘉汕蒐集品、井出嘉汕作品） 16件173点
- ・田中芳男関係資料 20件67点
- ・堀親賢宛書状 1 卷（3 通）
- ・石田家文書 33点
- ・柳田家文書 1, 713点
- ・柳田家資料
 - 書画類 11件71点
 - 短冊類 521点
 - 文書類 683件1, 813点
 - 柳田国男自筆資料 6 点
 - カルタ類 18点
 - 刀剣類 1 点

〈自 然〉

- ・古生物・現生骨格等（長谷川善和コレクション） 5690点

2) 購 入

〈美 術〉

- ・雑誌『国華』 2冊
- ・雑誌『日本美術』8号 1冊

〈人 文〉

- ・『伝説の下伊那』（岩崎清美著） 1冊
- ・『叢山たつふるさとの歌』（牧内武司著） 1冊
- ・蕉梧堂ホテル 絵葉書（袋付） 7枚

3) 資料の修復

〈美 術〉

作品の表装

- ・正宗得三郎《朱描鍾馗図》 1幅
- ・菱田春草宛岡倉天心書簡 1幅
- ・横山大観《菱田家みち》 1幅
- ・関島松泉《天龍峽十勝詩歌》 1幅

〈人 文〉

田中芳男関係資料の修復・表装

- ・「水草之図二十種」 1幅
- ・伊藤圭介漢詩 1幅

4) 館蔵資料の登録・データベース化

〈美術〉

- ・藤本四八撮影ガラス乾板 12枚
- ・藤本四八撮影35mmモノクロ写真フィルム 7,295カット

〈自 然〉

- ・古生物関係資料（長谷川コレクション） 5,690点
- ・鳥類剥製・骨格 20点

5) 写真・映像資料のデジタル化および編集

〈人 文〉

- ・「下栗のかけ踊」（飯田市上村）の撮影と編集

6) 資料貸し出し

〈美 術〉

①特別企画展「下村観山展」

東京国立近代美術館 R8.3.17～5.10

和歌山県立美術館 R8.5.30～7.20

- ・下村観山《住吉明神》
- ・下村観山《稚児文殊》

②佐竹蓬平・鈴木芙蓉を愛する会展示

飯田市伊賀良公民館 R7.11.8～11.9

- ・佐竹蓬平筆《伯牙弹琴図》
- ・鈴木芙蓉筆《鳴門曉景図》

〈人 文〉

①特別展「Over the Waves-南蛮・万博・ジャポニスム-」

和泉市久保惣記念美術館 R7.9.7～11.3

田中芳男関係資料

- ・メダル（第2回パリ万国博覧会記念品）
 - ・袱紗（第3回パリ万国博覧会記念品）
- ②瑠璃寺御開帳特別展「瑠璃寺の宝物展」
高森町歴史民俗資料館、R8.3.15～4.19
- ・朝日寿永寄進状（寄託資料）

7) 他機関・学習・研究団体等への協力

①教育機関への支援

〈全 体〉

- ・博物館実習、職場体験学習、インターンシップの受け入れ

〈美 術〉

- ・下伊那教育会菱田春草研究委員会との連携
- ・下伊那教育会図工・美術科委員会との連携
- ・小中学校との菱田春草鑑賞授業の実践

〈人 文〉

- ・小中学校への協力（上村小学校・和田小学校・遠山中学校、阿智第一小学校、飯田東中学校）
- ・高校への協力（風越高校）
- ・教員研修（上村小学校・和田小学校・遠山中学校、上村保育園・和田保育園）

〈自 然〉

- ・天竜川総合学習館かわらんべ講座への協力
- ・子どもの森公園観察会への協力
- ・小中学校への協力（竜丘小学校、上郷小学校、旭ヶ丘中学校、飯田西中学校など）
- ・高校への協力（下伊那農業高校）
- ・公民館・自治振興センターへの活動協力（川路など）
- ・保育園・幼稚園への協力（時又保育園、竜丘保育園など）

〈プラネタリウム〉

- ・天竜川総合学習館かわらんべ講座への協力
- ・小中学校への協力（千栄小学校など）
- ・公民館・自治振興センターへの活動協力（鼎、南信濃など）

②各種団体

〈全 体〉

伊那谷研究団体協議会

〈美 術〉

春草会への協力、春草公園を愛する会との連携、佐竹蓬平・鈴木芙蓉を愛する会への協力、飯田鉄斎愛好会への協力、竜丘地区自治会の自由画保存顕彰事業との連携、中学校部活動地域移行会議への協力

〈人 文〉

飯田市歴史研究所、飯田市大学誘致連携推進室、柳田國男記念伊那民俗学研究所、飯田・城下町サポーター、飯田市平和祈念館展示検討委員会、南信州民俗芸能継承推進協議会（事務局）、全国神楽継承・振興協議会、飯田信用金庫（地域サポート部）遠山常民大学

〈自 然〉

伊那谷自然友の会、はなのき友の会、松本むしの会、金属・鉱物の会、下伊那教育会、長野県ジオパーク協議会、南アルプス自然環境保全活用連携協議会

③委員等の委嘱

〈美 術〉

宮田村文化財保存活用地域計画作成協議会委員

〈人 文〉

長野県立歴史館（資料委員）、諏訪市文化財専門審議会（委員）、『伊那市誌』編纂協力員、国立歴史民俗博物館共同研究員、展示プロジェクト「東アジアの耕織図（仮）」（委員）

〈自 然〉

日本鱗翅学会、日本蛾類学会、国土交通省天竜川流域委員会、信州昆虫学会、長野県レッドリスト改訂検討会議・専門部会、中央アルプス駒ケ岳（千畳敷カール）保存管理委員会、伊那市50年の森林ビジョン生物多様性検討部会

8）関連事業

〈美 術〉

- ・春草ウィーク

菱田春草の誕生日（9月21日）と命日（9月16日）に近い一週間を春草ウィークとして、美術博物館の観覧料を無料とした。またプラネタリウムで番組「菱田春草の青春～日本画誕生への道～」の特別投影を無料でおこなった。

- ・「税に関するポスター」審査への協力（飯田市税務課）
- ・「障がい者文化芸術作品展」審査への協力（社会福祉協議会）
- ・「防犯ポスター」審査への協力（飯田警察署）

〈人 文〉

- ・南信州民俗芸能継承推進協議会
- ・藤本四八記念小中高生写真賞（飯田信用金庫地域サポート部）

【飯田市の取り組み】

- ・「ゼロから始める古文書」（歴史研究所）
- ・遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディ（大学誘致連携推進室）
- ・IIDA学輪大学（企画課）

〈自 然〉

- ・南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの取り組み（環境課ほか）
- ・南アルプスユネスコエコパークの取り組み（環境課ほか）
- ・飯田市環境チェッカー（環境課）
- ・飯田市の環境保全対策（環境課）
- ・飯田市の防災対策（交通防災課）
- ・遠山郷エコパーク・ジオパーク フィールドスタディ（大学誘致連携推進室）
- ・IIDA学輪大学（大学誘致連携推進室）